資料　(4)　「問い」に基づく「読み」の段階Ⅱ

＜学習課題の追究を通して、筆者の主張をとらえる＞

○　学習課題の追究・筆者の主張の把握

	学習内容　及び　活動	教師の手だて 評　　価
4次	①　前時までの学習活動を整理し、本時の学習課題を確認する。 ・前時までの学習プリントを見直す。 ②　対比的に金星を取り上げた筆者の意図について考える。 （　個人→班で意見交換→発表） ○なぜ筆者は金星を取り上げたのだろう。 ＜予想される生徒の反応＞ ・二酸化炭素の増大による「温室効果の極限の状況」である金星 →「地球への大きな警告」 ・地球の温暖化→　金星に近づきつつある ・今、知恵を出し合うことが求められている ③　筆者の主張に対する自分の考えをまとめ、感想を書く。 ④　残った２つの学習課題について、今後の学習の方法や方向を話し合う。	①　学習プリントを参考にさせて、確認させる。 ○　前時までに設定した４つの学習課題を提示し、その中の①②について考えることを確認しておく。 ②　「なぜ、筆者は金星を取り上げたのか」と生徒に問い返すことで 筆者の主張や以下のことに着目させる。 ・「温室効果の極限の状況」である金星 →「地球への大きな警告」 ・金星→「地球の双子星とさえ」 「地球に最も近い」 「地球のすぐ内側」 ・地球の環境→ まさにすばらしい偶然の産物 ・ノートに課題に対する自分の意見を書いている。【ノート】 ・班の意見交換の時、大きな声で自分の意見を述べている。【話し合い】 ・発表を聞いてノートにメモをとっている。【ノート、ワークシート】 ○　板書やＯＨＰを利用して、生徒の発言を整理する。 ③　ここでは簡単なコメント程度とし、読後感想については後日各自でまとめさせる。 ・自分の考えを書いている。【プリント】 ④　本時の学習した内容も参考にし、学習の参考になる資料等についての情報交換をする。 ＜残った学習課題＞ ・私たちは地球人として何をすべきなのか。 ＊どうすれば温暖化を防げるのか（対策）。 ・地球の環境に対してみんなはどう考えているか。

４つの学習課題のうち、「金星大気の教えるものとは何なのか。」「金星大気の教えるもので筆者は何が言いたいのか。」この二つの学習課題は、（３）の「問い」に基づく「読み」の段階１において、生徒が気づいたことを発表していく中で解決されました。そこで、（４）の「問い」に基づく「読み」の段階２では、「地球のことがいいたいのに、なぜ金星をとりあげたのだろうか」と言う発問を教師の側から生徒たちに返しました。これに対して生徒は、「地球の温暖化をいいたいのだから、暑い星でないとだめであること、また、その温暖化は二酸化炭素が原因であるため、大気、それも二酸化炭素があるものでないとだめなこと、金星が『地球の双子星』といわれるように大きさなどが似ていること」、等をあげてきました。最初の感想では、ほとんどの生徒は「ことがら読み」の段階であったのですが、（４）の段階では筆者の述べ方に迫る「読み」（わけがら読み）にほとんどの生徒の「読み」が変化していました。こうした生徒の読みの変化から、生徒は、教師が考えている以上に深く「読む」力をもっているのだということ、それを敏感にキャッチし、臨機応変に対応していくかが、生徒の「読み」に向かうエネルギーをさらに増幅していくことにつながるのだということを感じました。